

令和2年10月13日

## 時代の変革を見据えた施策の立案について

企画部長

新型コロナウイルス感染症は、経済活動や市民生活に大きな影響を及ぼしており、本市においても感染拡大防止と社会経済活動の両立に最優先に取り組んでいるところである。

一方で、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中であっても、我々行政は、未来を見据えたまちづくりを継続していかなければならないところであり、令和3（2021）年度の予算においては、“with コロナ”を前提とした施策に加え、“ポストコロナ”を意識し、未来のあるべき姿を志向する施策を展開する必要がある。

### 1 ポストコロナ時代を見据えたSDGsの推進

#### ○新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響

- ・様々な社会経済活動が制限されたほか、これまでの私たちを取り巻く経済・社会・環境が必ずしも持続可能なものではなかったことが表面化した。

→その結果

- ・人々が社会の持続性について改めて意識するようになるとともに、SDGsの重要性が再認識されている。

#### ○SDGsは、ポストコロナ社会に向けて飛躍を始めるための強力なツール

- ・SDGsの考え方は、「持続可能なまちづくり」に直結する。
- ・人口減少や少子高齢化などから発生する社会的課題の解決のためにも、経済・社会・環境の三側面を中心に、様々な目標を統合的に捉えるSDGsの考え方を政策や施策に取り入れ、領域を超えた分野横断的な視点を持つことが必要である。

SDGs推進の取り組みを有効かつ効果的に活用し、  
様々な変化や感染症リスクにも耐えうる  
※レジリエントで持続可能な岐阜市を実現

※レジリエント・・・弾力があるさま、柔軟性があるさま

### 2 予算に取り入れるSDGsの視点

- ① 行政だけでなく企業、個人などさまざまなステークホルダーとの連携
- ② 既存の施策・事業の継続ありきでなく、それらを徹底的に見直しつつ、20年、30年先を見据えた未来のあるべき都市の姿をイメージし、その実現のために今から取り組むべき施策・事業を検討
- ③ 経済・社会・環境の三側面におけるバランスの取れた統合的取り組みの推進